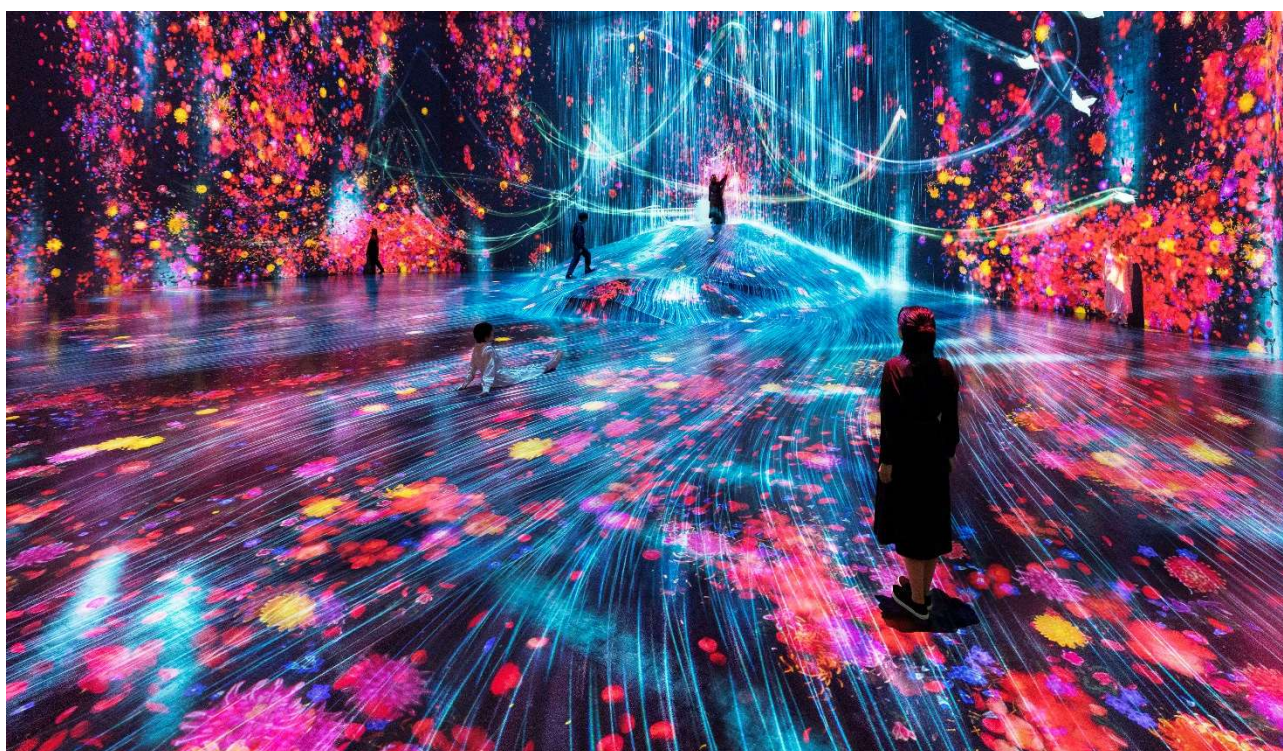


**「森ビル デジタルアートミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」
麻布台ヒルズに2月9日(金)オープン**
複数の新作を含む50点以上の作品群による“境界なく連続する1つの世界”が登場



チームラボ《人々のための岩に憑依する滝》、《花と人、コントロールできないけれども共に生きる - A Whole Year per Hour》、
《追われるカラス、追うカラスも追われるカラス:境界を越えて飛ぶ》© チームラボ

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長:辻慎吾)は、アート集団チームラボと手がける、森ビル デジタルアートミュージアム:エプソン チームラボボーダレス(以下、チームラボボーダレス)を、2024年2月9日(金)に、麻布台ヒルズに東京・お台場から移転オープン。独立した50以上の作品群が複雑に関係し合うチームラボボーダレスの全貌を公開します。

森ビルは、チームラボとの協働を通じて世界中の人々を惹きつける新たなミュージアムを都心部に創出し、引き続き、国際都市・東京の磁力向上に貢献して参ります。

【本件に関してのお問合せ先】

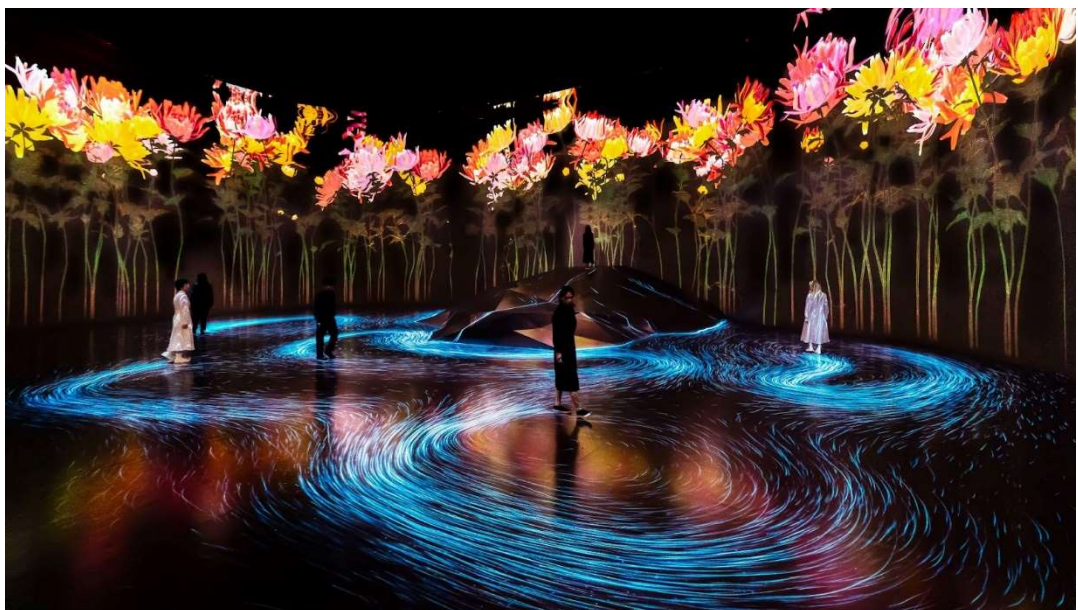
森ビル デジタルアートミュージアム:エプソン チームラボボーダレス 広報事務局(共同ピーアール株式会社内)
担当:高杉、日比、田ヶ谷(080-1088-7338)、秋山(080-1032-8649)、兪(ゆう)
Email: borderless-pr@kyodo-pr.co.jp



チームラボ《人々のための岩に憑依する滝》、《花と人、コントロールできないけれども共に生きる
- A Whole Year per Hour》© チームラボ



チームラボ《人々のための岩に憑依する滝》、《世界はこんなにもやさしくつくしい》、
《花と人、コントロールできないけれども共に生きる - A Whole Year per Hour》© チームラボ



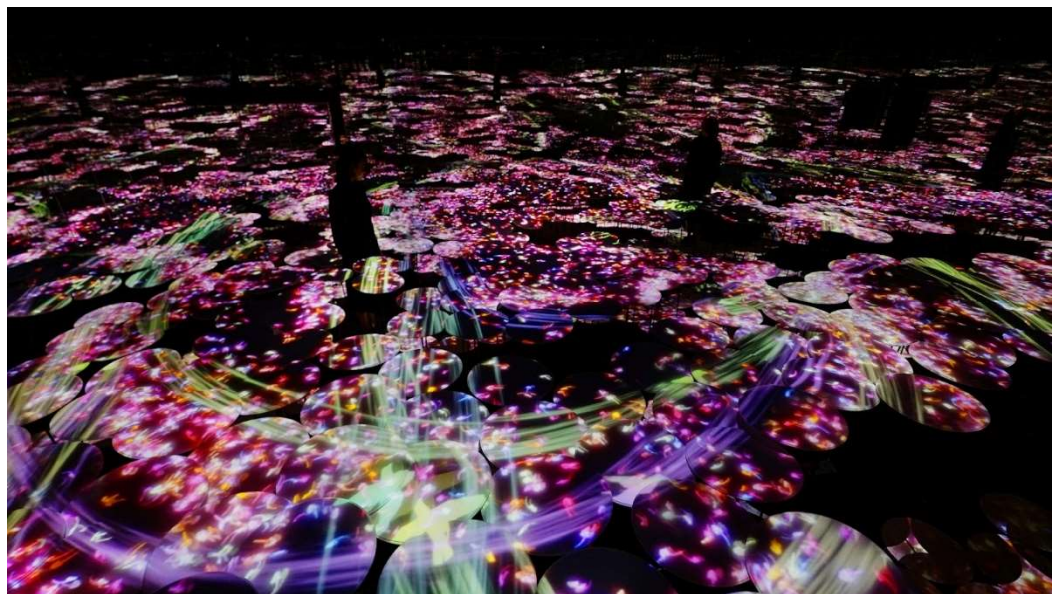
チームラボ《増殖する無量の生命 - A Whole Year per Year》、
《Moving Creates Vortices and Vortices Create Movement》© チームラボ



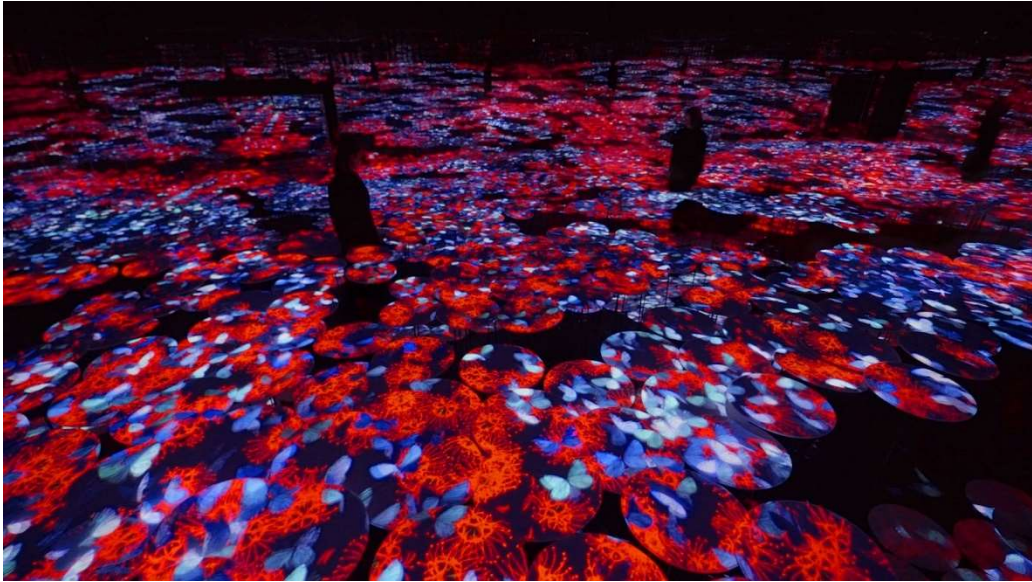
チームラボ《花と人、コントロールできないけれども共に生きる - A Whole Year per Hour》、
《追われるカラス、追うカラスも追われるカラス：境界を越えて飛ぶ》© チームラボ



チームラボ《Walk, Walk, Walk: 探し、遠ざかり、また出会う》、《境界のない群蝶》© チームラボ



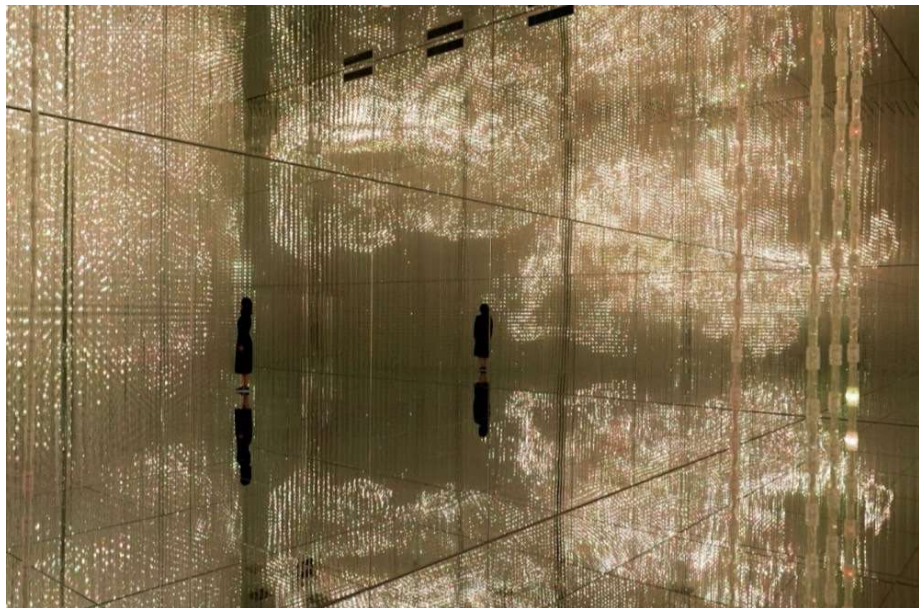
チームラボ《地形の記憶》、《追われるカラス、追うカラスも追われるカラス：境界を越えて飛ぶ》© チームラボ



チームラボ《地形の記憶》、《境界のない群蝶 - 地形の記憶(仮)》© チームラボ



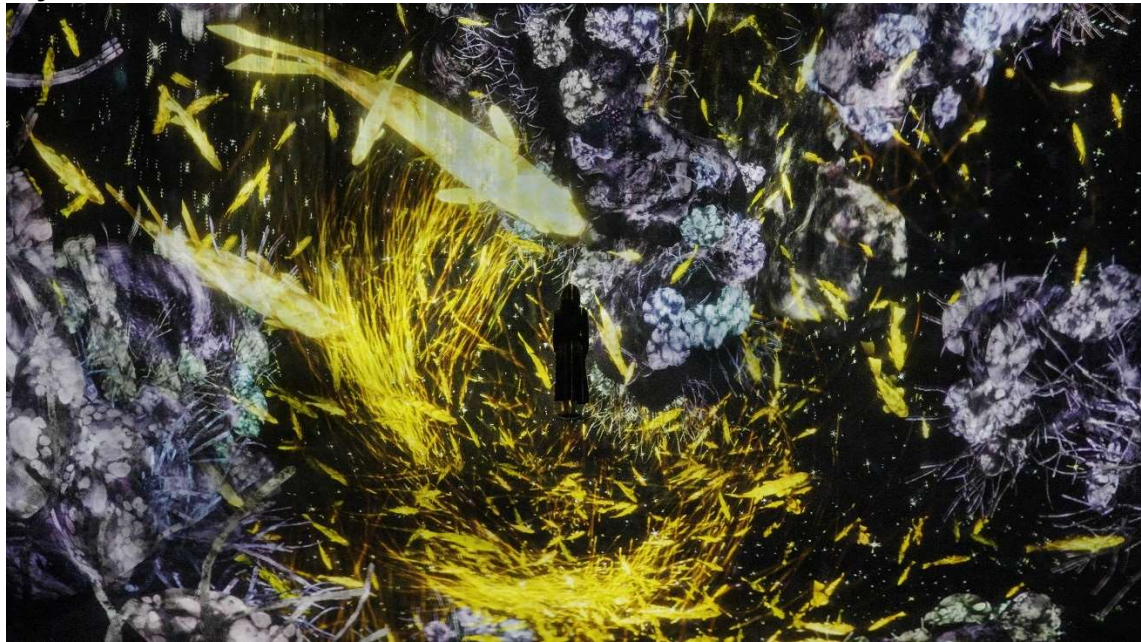
チームラボ《Memory of Waves》、《追われるカラス、追うカラスも追われるカラス：境界を越えて飛ぶ》© チームラボ



チームラボ 《Infinite Crystal World》 © チームラボ

【Borderless World】

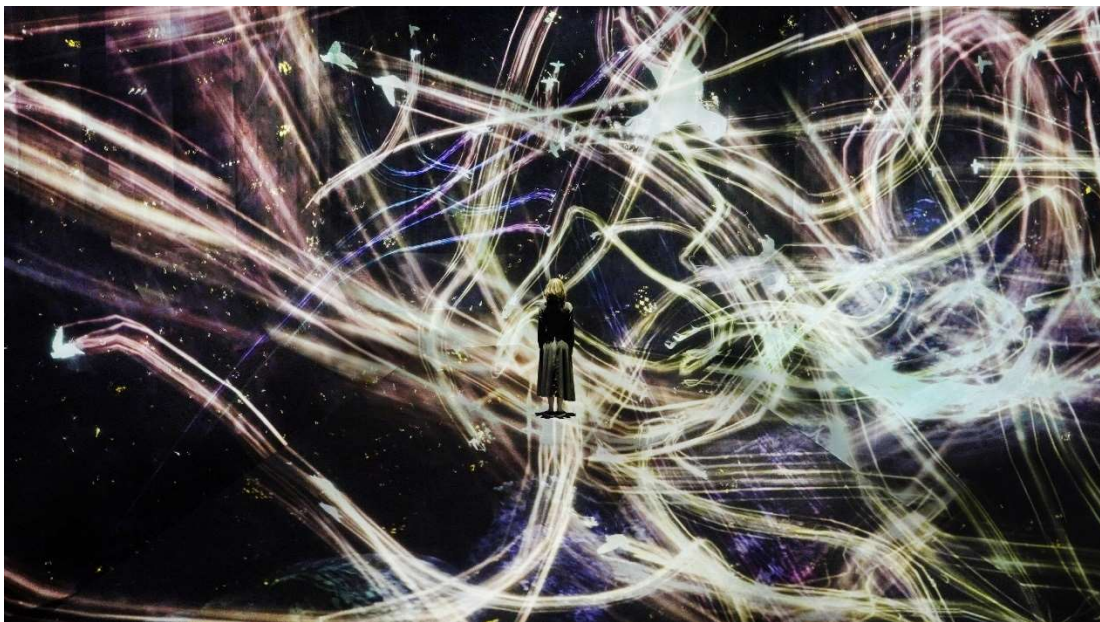
The Way of the Sea: 虚空の宇宙



チームラボ《The Way of the Sea: 虚空の宇宙》© チームラボ

「虚空の宇宙」に《The Way of the Sea: Flying Beyond Borders》が通路から入ってくることで始まるこの作品は、物理的な壁を超越し、群の軌跡が描く線が空間に立体的に描かれはじめます。人々の身体は、作品世界と一体となって、空間を浮遊します。自然界の魚の群れの動きは、美しく神秘的で、まるで一つの巨大な生命体が存在しているようにも見えます。そのような存在の認識について模索していきます。

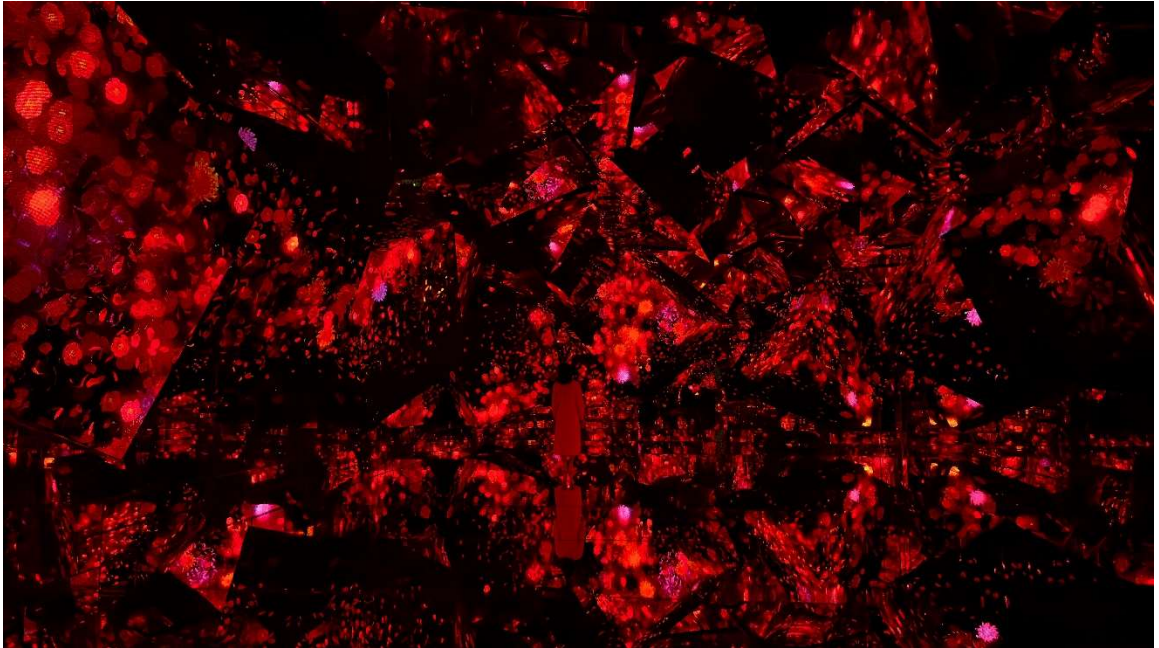
追われるカラス、追うカラスも追われるカラス：虚空の宇宙



チームラボ《追われるカラス、追うカラスも追われるカラス：虚空の宇宙》© チームラボ

「虚空の宇宙」に《追われるカラス、追うカラスも追われるカラス：境界を越えて飛ぶ》が通路から入ってくることで始まるこの作品は、光で描かれた八咫鳥が物理的な壁を超越して飛び、先頭のカラスを追いかけます。追いつかれたカラスは花となって散り、追うカラスもやがては追われる側になっていきます。カラスの軌跡が描く線が空間に立体的に描かれ、人々の身体は、作品世界と一体となります。

生命は闇に咲き闇に帰る微小な光



チームラボ《生命は闇に咲き闇に帰る微小な光》© チームラボ

互いの時空が繋がりが合った時空の塊が乱在し、その時空の中で、花々が誕生と死滅を永遠に繰り返していきます。人々が近くで動きまわると花々は散っていき、じっとしていると花々は普段よりほんの少しだけ多く生まれます。

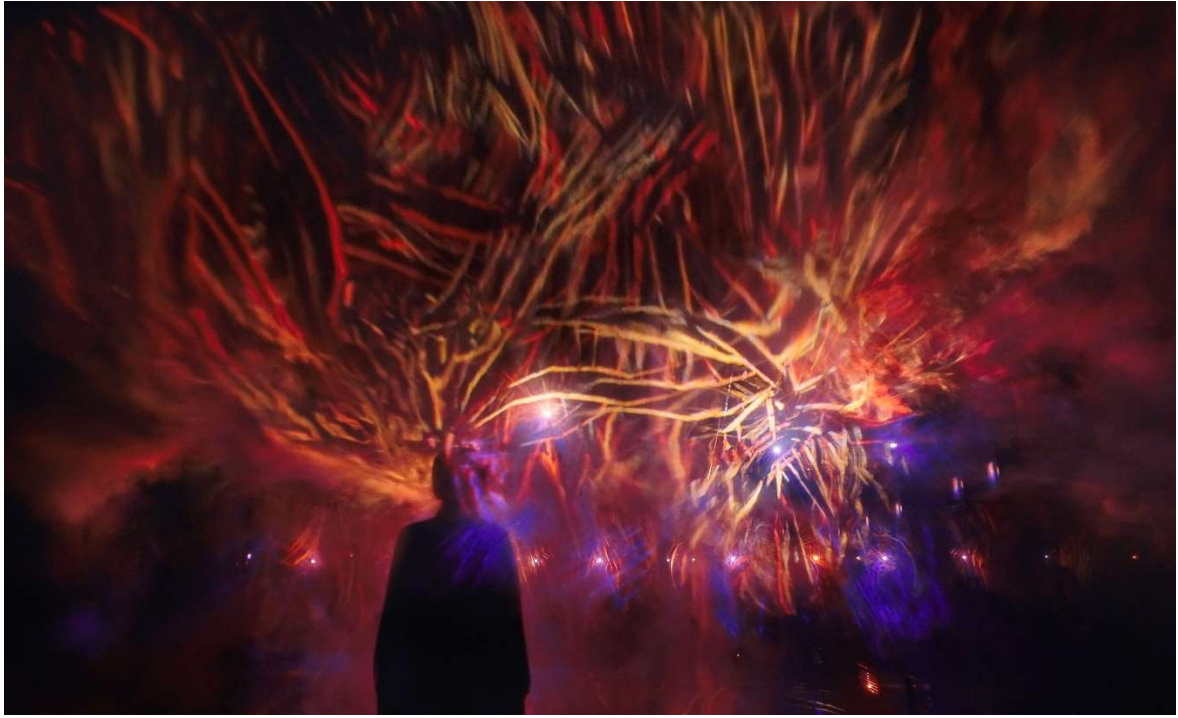
Black Waves: 闇から生まれ闇に帰る



チームラボ《Black Waves: 闇から生まれ闇に帰る》© チームラボ

海は全ての海と繋がっていて、この世界の全ての波は繋がりがあっています。古典的な東アジアの美術の波は、線の集合で表現されることが多く、線の集合でできた波は、それらが流れの中の一部であることを気が付かせてくれます。そして、その線の集合は、波がまるで一つの生き物であるかのように感じたことを、思い出させてくれるのです。

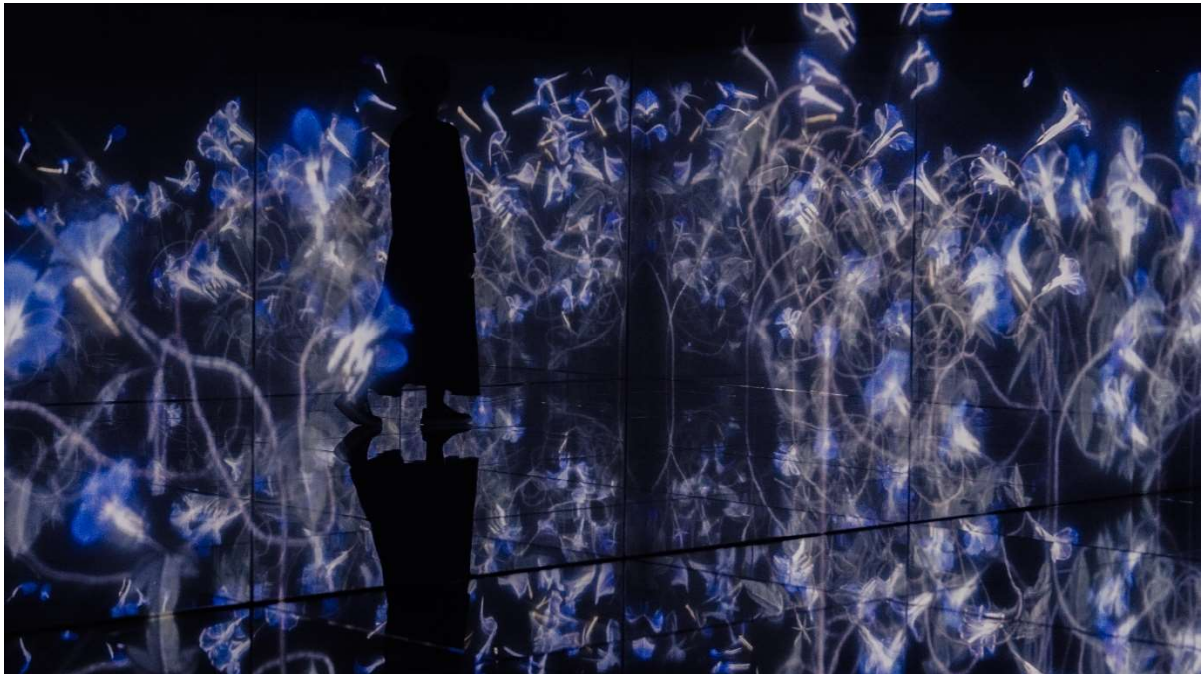
溶解する炎



チームラボ《溶解する炎》© チームラボ

多層的な線や、こちら側に伸びる線、向こう側に伸びていく線の集合によって、炎は描かれ、溶けていきます。見えてくる絵画は、自らの身体の目の焦点が決めますが、焦点は自らの意志を超えて動的であることを示唆します。

凍結された生命



チームラボ《凍結された生命》© チームラボ

カメラで瞬間をとらえると明確に平面的である絵画ですが、身体は、立体の彫刻のようにも認識します。人間は、動的な身体で、瞬間ではない時間によって世界を認識していることを示唆します。

中心も境界もない存在



チームラボ《中心も境界もない存在》© チームラボ

中心のように見える黒い核のようなものに、触れようとする反応して変化していきますが、触れても触れられません。中心と思っていたものも、壁だと思っていた境界も実際はありません。本作は、認識と存在について、そして、人間が世界をどのように見ているのかを模索します。

【Light Sculpture - Flow】



チームラボ《Tunnel into the Mirror Universe》© チームラボ

「ライトスカルプチャー - Flow」シリーズは、流れ出ていく光による巨大な彫刻が生まれ、押し寄せ、広がり、人々を飲みこんでいきます。

「非対称宇宙」と呼ぶ空間に生まれるライトスカルプチャー。現実空間とミラーの中の世界とでは、非対称な異なる存在として生まれ、現実世界とミラーの中の世界を行き来します。

これまでもチームラボは、物質的ではない彫刻、「境界面の曖昧な空間彫刻」を創ってきました。「なぜ、海の渦に存在を感じるのか？そして、それを生命にすら感じるのか？構成要素が空間的・時間的に離れていたとしても、部分に秩序が形成された時、部分の一つの存在として認識され、時には生命のようにすら感じる。」このような考えのもと、流れ出ていく光の集合体が、生命的宇宙を創ります。

【Bubble Universe】



チームラボ《Bubble Universe: 実体光、光のシャボン玉、ぷるんぷるんの光、環境によって生み出される光》© チームラボ

《Bubble Universe》は、チームラボの新たなアートプロジェクト「認識上の彫刻」をテーマにした、インタラクティブな作品です。空間は無数の球体群によって埋め尽くされ、それぞれの球体の中には、異なる光の存在が入り混じっています。本作は、認知と存在について、そして、人間が世界をどのように見ているのか、を模索すると同時に、現象とは環境との連続的な関係性の中に存在することを示唆しています。

【Microcosmoses】



チームラボ《マイクロコスモス - ぷるんぷるんの光》© チームラボ

《マイクロコスモス - ぷるんぷるんの光》は、奥行きすらわからない無限に広がる空間の中を、無数のぷるんぷるんの光が走り続けます。「構成要素が空間的・時間的に離れていたとしても、全体に異なった秩序が形成され、重なり合う時、それは、宇宙か？」を模索する作品です。ぷるんぷるんの光は、チームラボのアートプロジェクト「認識上の彫刻」で、それは、物理世界には存在せず、認識世界に存在する彫刻なのです。

【スケッチオーシャン】



チームラボ《スケッチオーシャン》© チームラボ

共同的な創造性「共創」をコンセプトにした作品《スケッチオーシャン》では、来場者が紙に描いた魚が、他者が描いた魚たちと共に目の前の海で泳ぎだします。魚たちは人々にインタラクティブに反応しながら、部屋を出て、他の作品の境界を越えてチームラボボーダレスの中を泳ぎ始めます。中でも、マグロは、ミュージアムの物理空間をも超えて、世界の他の場所で行われている展覧会へと泳いでいき、そこで描かれたマグロの群れを引き連れて帰ってきます。

【EN TEA HOUSE】



チームラボ《小さきものの中にある無限の宇宙に咲く花々》© チームラボ

チームラボボーダレス内にあるティーハウス。一服の茶を点てると、茶に花が生まれ咲いていきます。花々は茶がある限り無限に咲き、器の中の茶は、花々が咲き続ける無限の世界となります。その無限に広がる世界をそのまま飲むティーハウスです。

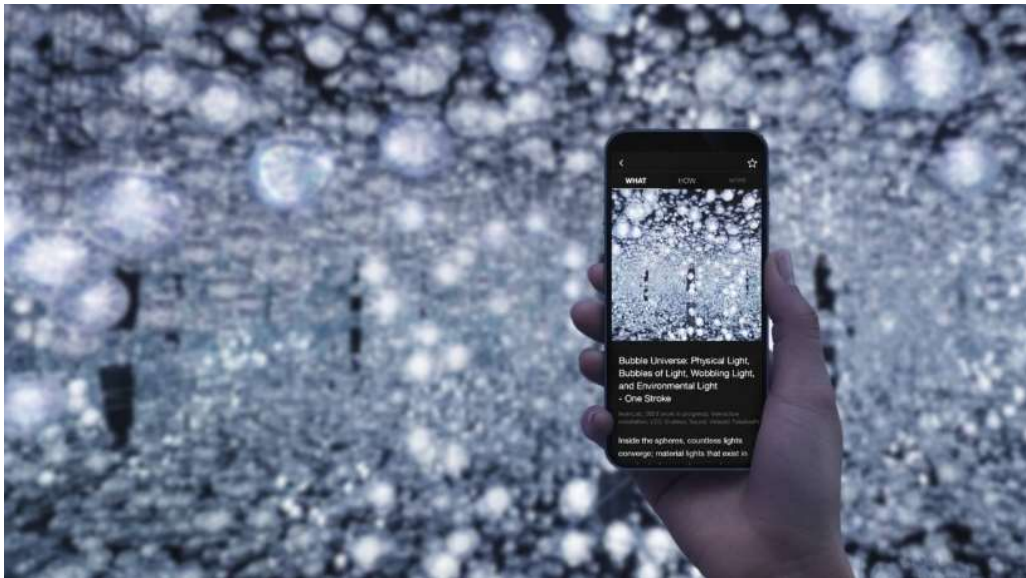
【エントランス】



チームラボ《人間はカメラのように世界を見ていない》© チームラボ

エントランス空間の指定の位置付近でカメラを通して見ると、「teamLab Borderless」の文字が空間に浮き上がり正体をします。しかし、同じ場所で肉眼で直接見ても、文字は浮き上がりません。人間はレンズのように世界を見ていないことを示唆しています。

【アプリ】



深く知って、もっと楽しむ

チームラボボーダレスには、作品のキャプション（説明文）がありません。なぜなら、作品が移動していくからです。そのため、自分の近くの作品のコンセプトが読めるガイドアプリを用意しています。

作品を創って、もっと楽しむ

《Infinite Crystal World》では、このアプリで作品に参加し、作品の一部を創ることができます。

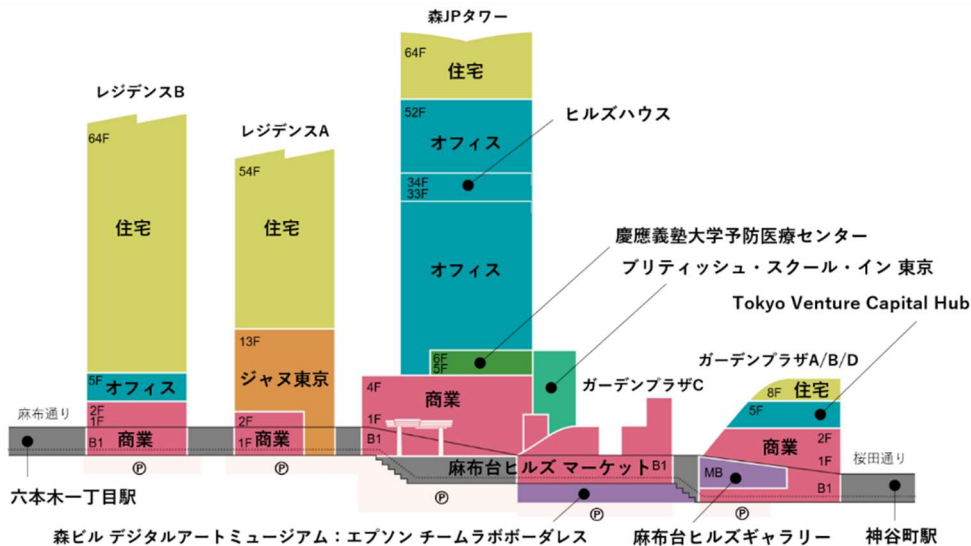
列に並ばず、もっと楽しむ

混んでいる作品の整理券を発券できます。順番が近づくとアプリに通知されます。

麻布台ヒルズとチームラボボーダレスについて

森ビルは、「文化」を都市づくりにおける重要な要素と位置付けて、街ごとに個性的な文化施設を創出してきました。2018年に開館した森ビル デジタルアートミュージアム:エプソン チームラボボーダレス(東京・台場)もその一つであり、チームラボとともに国際都市・東京の磁力向上に貢献してきました。

ウェルネスへの意識が高まってきた今、文化やアートは、人々の心を豊かにするものとして、ますます重要視されています。”Green & Wellness”をテーマとする麻布台ヒルズでは、「アートによって、自分と世界との関係と新たな認識を模索したい」と考えるチームラボの作品群が、訪れる人の感性を刺激し文化を育むことを願って、チームラボボーダレスを移転オープン。多様な文化発信をする麻布台ヒルズギャラリー、街のあらゆる場所に設置されるパブリックアートとともに、芸術・文化が一体となったミュージアムのような街を目指します。



チームラボボーダレスについて

チームラボボーダレスは、アートコレクティブ・チームラボの境界のないアート群による「地図のないミュージアム」です。境界のないアート群は、部屋から出て他の部屋へと移動し、他の作品とコミュニケーションし、影響を受け、作品同士が混ざり合います。チームラボボーダレスは、そのような作品群によって、境界なく連続する1つの世界です。人々は、境界のないアートに身体ごと没入し、「境界のない1つの世界の中で、さまよい、探索し、発見する」のです。新しいチームラボボーダレスでは、境界のないアート群は、より進化し、より多くの場所へ移動し、複雑に関係し合い、永遠に変化し続ける境界のない一つの世界を創ります。



「森ビル デジタルアートミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」東京 © チームラボ



チームラボ《人間はカメラのように世界を見ていない》エントランス「森ビル デジタルアートミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」東京 麻布ヒルズ © チームラボ

麻布台ヒルズについて

麻布台ヒルズは、アークヒルズに隣接し、文化都心・六本木ヒルズと、グローバルビジネスセンター・虎ノ門ヒルズの間、文化とビジネスの両方の個性を備えたエリアに立地しています。

約 8.1ha もの広大な計画区域は圧倒的な緑に包まれ、約 6,000 m² の中央広場を含む緑化面積は約 24,000 m² を誇ります。そこに、延床面積約 861,700 m²、オフィス貸室面積約 214,500 m²、住戸数約 1,400 戸を複合的に開発。中心となる森 JP タワーの高さは約 330m、就業者数約 20,000 人、居住者数約 3,500 人、年間来街者数約 3,000 万人を見込み、そのスケールとインパクトは「六本木ヒルズ」に匹敵します。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

麻布台ヒルズは、当社が理想とする「都市の中の都市(コンパクトシティ)」であり、これまでのヒルズで培ったすべてを注ぎ込んだ「ヒルズの未来形」です。

施設名称 : 森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス

<https://borderless.teamlab.art/jp/>

所在地 : 麻布台ヒルズ ガーデンプラザ B B1(東京都港区麻布台 1-2-4)
(麻布台ヒルズ <https://www.azabudai-hills.com>)

開館日 : 2024 年 2 月 9 日(金)

開館時間 : 10:00 - 21:00

*最終入館は閉館の 1 時間前

*開館時間が変更になる場合がございます。公式ウェブサイトをご確認ください。

休館日 : 第一・第三火曜日

*休館日が変更になる場合がございます。公式ウェブサイトをご確認ください。

チケット価格 : 大人(18 歳以上): 3,800 円～

中学生・高校生(13 - 17 歳): 2,800 円

子ども(4 - 12 歳): 1,500 円

3 歳以下: 無料

障がい者割引: 1,900 円～

*事前日時指定予約制です。

*大人と障がい者割引につきましては変動価格制を導入し、日によって金額が異なります。日別の価格をご確認の上、日時指定チケットをお買い求めください。

*現地での購入の場合、上記価格に+200 円となります。

チケット購入 <https://borderless.teamlab.art/jp/>

プレスキット <https://www.dropbox.com/sh/ktiauv5xq8s0jzr/AAASjm3y4EKWTqRidKoIuCM5a?dl=0>

お問い合わせ <https://www.teamlab.art/jp/contact/>